の地を築出し、その後の事にや、又それよりさきの事にや、詳ならず、又按ずるに、糀町は江戸御打入りの時にひらかれしとて、山王祭にも第一ニ十二町の笠鉾をわたす也、又赤坂にも傳馬町有、是をおもふに、最初江戸の町は、上方よりしては、京橋の邊よりあなたにて、赤坂へかゝりて城下へ入りしが、御入國後に、糀町ひらかれしなるべし、其時にて、京橋筋よりは、今の西北下を往來の道とし、大手の前より本町へ通りしなるべし、奥のかたへの町の終りは、今の神田の旅籠町これ也と、これも長野のいひし也、今の常盤橋を大橋と名付しといへば、これはむかしよりありし也、平川より海へ落入る水かけし橋と見へし、其後に京橋より本町筋迄の町出來るに至て、川筋をほりひらけて、日本ばし、江戸橋といふも出來しなるべし、これらは慶長五年、關東事終りし後の事なるべし、それより前の事は、右のごとくと見へたり、大猷院樣○德川家光御代迄、西丸御普請といひしは、今の西丸の大手の廓と、又は西丸下の外櫻田門より和田倉迄の廓など築れし事なるべし、

重羽又云、其後小日向の邊ひらかれし時は、我等が父の奉行を承りたり、此邊に町家なくしてはいかゞと申上ければ、町をもわり渡し候へとの事也、其時は奉行の心々なれば、今の室新助の父の醫師なるに、屋敷一つ割あたへし事などあり、むかしは如斯なりしといふ、

〔江戸紀聞 二〕江戸總說

江戸の大都會なる、古へ京坂の盛んなりしといへども、比すべくもあらじ、それもわづかに二百年來の事にして、天正十八年の前は、北條家の家人等が居宅ありしのみにて、餘は多く田野の地なりしと見ゆ、神祖江戸の城にうつり給ひしより、三河遠江等の御家人等つどひ集りしかば、城下にして、ことゞく邸宅の地を給へる、もとより當國の住人もありしなるべし、其後元和二年、駿河の御家人ら此地にうつるべし、さもあらんには、居宅の地せまかるべしとて、江戸川を今の小石